

藤井(深)委員

インクルーシブ教育の推進について質問させていただくんですが、今までも様々に質疑がありましたので、1点お聞かせいただきたいんですが、7ページのところにインクルーシブ教育推進フォーラムの実施があつて、参加者からの主な意見が出ておりました、丸ポツの3番目、地域で何ができるのか、もっと踏み込んでほしいという御意見を頂いています。この意見に関して、私ももう少し地域を巻き込んだ方がいいんだろうと思います。皆さん一生懸命頑張っておられて、もう少し地域の知恵を入れることが必要だろうと思っているんです。そこで、県教育委員会として、これからこのフォーラムの実施をしていくわけですが、地域にどういったことを望んで、地域とどのように関わっていくのか、その1点をお聞かせいただきたいと思います。

インクルーシブ教育推進課長

県教育委員会では、今年度のフォーラムのテーマとして設定しましたとおり、県内の各地域でお住まいの皆さんによってネットワークが形成されて、子供たちがそれぞれの地域でしっかり支えられながら成長して、将来の共生社会の担い手となっていただきたいということを強く考えております。そのため、今後のフォーラムの実施におきましては、それぞれ県内各地で引き続き開催してまいりますけれども、開催する地域の教育委員会だけではなくて、各市町村の部局ですとか、商工会議所などとの連携も図ることで、地域の自治会ですとか福祉あるいは労働関係機関、それから企業などにも働き掛けを行ってまいろうと考えております。そのようにすることで、様々なお立場から、より多くの皆様にフォーラムというお集まりいただける場所にお越しいただきまして、様々なお立場から、共生社会について共に考えていただけるような機会とさせていただけるように取り組んでまいります。

藤井(深)委員

少子化社会ということで、お一人の子供さんが本当に大事に育っていく。最近嫌な事件も多いですけれども、そういった意味で本当に地域と一体になって、皆さん方も一生懸命考えておられる。もっとお願いすることがあっていいと思いますので、是非そういった取組を引き続きお願いしたいと思います。

次に、いじめの問題について、これも今回地域ということ絡めて質問させていただくんですが、今までも様々な議論がありましたけれども、いじめの問題に対して、学校は、様々な保護者とか地域の方々と連携して取り組んでおられます。更に取り組んでいく必要があると考えているんですが、引き続き、今後県教育委員会としてどのように取り組んでいくのか、考えをお聞かせいただきたいと思います。

子ども教育支援課長

委員からお話しありましたように、いじめ問題について、地域の中でも特に民生児童委員とか青少年指導委員といった方を中心に、また、いろいろな場面で子供たちを見守っていただいて、朝に夕に声掛けといった見守り事業を行っていただいております。今後に向

けて、学校あるいは教育委員会として取り組むべきこととしては、やはりいじめ・問題行動を繰り返す児童・生徒はいろいろな背景を抱えている場合が多いです。したがって、学校だけが問題を抱え込むのではなくて、保護者や地域との連携は非常に密にしていくことが大事だと考えております。一番今必要なことは、問題が起こる前にあらかじめ学校や教育委員会は、保護者や地域の方に対して、例えば今のいじめの定義というのはどういうふうになっているのか、どういったことがいじめに当たるのか、あるいは自分のところの学校ではどういった取組を未然防止としてやっているのか、実際にどういったケースが自分の学校でも見られるのか、何か心配なことがあった場合はどこに連絡・相談をすればいいのか、そういった情報を積極的に発信して、保護者や地域と共通理解、情報共有をした上で、取り組んでいくということが必要ではないかと考えております。

藤井(深)委員

今、人口構成は逆となっており、大人の方が圧倒的に多い。やはり一人の子供さんにどんどん大人が絡んでいく必要があるんだろうと思います。これは皆さんもそうですし、私たちがそうですし、地域にお住まいの方もそうです。確かに学校では子供の数が多いけれども、一歩外に出たら大人の方が圧倒的に数が多いわけですから、お互い知恵を出し合って子供たちに絡む。そういう県民運動というか、そういったところで是非県教育委員会でも運動していただきたい。少し語弊あるかもしれませんが、それを目指して是非やっていただきたいということをお願いして質問を終わります。